



果樹林産センター 信方浩志郎

品種更新・改植

30年生を越えた老齡樹や高接後15年経過した樹は生産力が低下しています。改植を進めて若返りを図りましょう。苗木は乾燥に弱いいため、根を乾かさないように注意し、植え付け後は充分なかん水を行ってください。

剪定

剪定を行う事により、作業性の向上や日照の確保、薬剤散布がしやすくなります。同じ園地内でも樹の状態に応じた剪定を行いましょ。園地や樹毎に優先順位をつけ、先に表年が予想される樹を剪定します。表年の樹は「早く強く」、裏年の樹には「遅く弱く」を基本にして効率良く作業を進めましょう。

春肥

春肥は、新芽の充実や幼果の肥大に影響を与えます。時期が早いと、根の養分吸収率が低くなり流れてしまい、時期が遅いと、新芽の充実や幼果の発育に養分が行き渡らずに樹勢の低下を招いてしまいます。適期となる3月中旬に施肥し、施肥後の吸収効率を高めるために、春草の除草と、中耕を行ってください。

3月中旬

- ・ 早生 中部柑橘共通配合 90 kg / 10 a
- ・ 青島 中部柑橘共通配合 105 kg / 10 a

病害虫防除

近年、台風によるかいよう病の発生が多く見られます。過去に発病した園や発病しやすい品種には一番効果が高い発芽前に防除を行います。1月にマシン油乳剤の散布をしていない場合は3月に散布を行います。ICポルドー66Dとの散布間隔は14日程度空けてください。

- ・ かいよう病
 - ICポルドー66D 60倍
 - ミカンハダニ、カイガラムシ類
- マシン油乳剤(97%) 60倍